

令和 7 年度 久留米工業大学

教育研究推進外部評価委員会報告書

1. 開催日時

令和 8 年 3 月 16 日（月） 15：00～17：00

2. 開催場所

久留米工業大学 100 号館 9 階多目的ホール

3. 出席者名簿

【外部評価委員】

委員長：園田 佳 巨（九州大学 理事・副学長）

委 員：南 新 平（久留米工業高等専門学校）

委 員：久良木 拓郎（八女工業高等学校（代理））

委 員：森 春 樹（株式会社森鐵工所 代表取締役社長）

委 員：渋谷 茂 伸（ダイハツ九州株式会社（代理））

委 員：坂田 拓 真（久留米市（代理））

委 員：小林 浩（株式会社リクルート リクルート進学総研 所長）

【大学側出席者】

学 長：日野 伸一

副学長：麻生 茂

副学長：堀 憲一郎

学長補佐：河野 央

学長補佐：大森 洋子

事務局長：吉田 秀一

その他関係教職員

4. 外部評価委員会 概要（式次第）

1. 開会
2. 開会挨拶（学長 日野 伸一）
3. 委員紹介及び議長選出（事務局長 吉田 秀一）
4. 議題
 - (1)「教育の現状について」（資料 1）（副学長 堀 憲一郎）
 - (2)「研究の現状について」（資料 2）（副学長 麻生 茂）
 - (3)「入学者確保および就職の現状について」（資料 3）（学長補佐 河野 央）
 - (4)「社会貢献の現状について」（資料 4）（学長補佐 大森 洋子）
5. 全体質疑応答
6. 講評まとめ
7. 講評（外部評価委員長 園田 佳巨）
8. 閉会挨拶（学長 日野 伸一）
9. 閉会

5. 外部評価委員長 講評（全体総括）

本年度の評価にあたり、各評価項目（教育・研究・入学者確保および就職・社会貢献）の数値評価および全体総括を取りまとめた。本学が今後の 18 歳人口急減期を勝ち残り、自立的発展を遂げるための主要な方向性は、以下の 3 つのガバナンス戦略に集約される。

① リソースの「選択と集中」と強みの確立：

全方位的な活動ではなく、「AI・モビリティ」「地域密着型社会実装」等の特定分野にリソースを重点配分し、突出したエッジ（尖った強み）をブランドとして定着させること。

② 「ビジョン先行型自己点検評価」への委員会改革：

従来の縦割りによる実績報告スタイルから、大学が目指す明確な方向性（ストーリー・ビジョン）をまず提示し、それに紐づく形で各項目を検証する有益な仕組みへと外部評価委員会自体のあり方を進化させること。

③ 「学修者本位の教育」のデータ可視化と教職協働：

2029 年までの大学改革集中期間を見据え、学生の成長度や満足度をデータとして可視化し、それを

募集・退学防止・カリキュラム改善へと循環させる教職協働の仕組みをさらに強固にし、ガバナンス体制の高度化を図ること。

6. 各委員からの評価報告書（評価内容及び評価点）

※5段階評価基準：【5】優れている／適切 【4】やや優れている／ほぼ適切 【3】普通／どちらとも言えない 【2】やや劣っている／あまり適切と言えない 【1】劣っている／不適切

評価項目	評価点（平均）
(1) 教育の現状について	3.71
(2) 研究の現状について	3.71
(3) 入学者確保及び就職の現状について	3.86
(4) 社会貢献の現状について	4.14
全体平均	3.86

7. 外部評価委員からの意見

■ 教育の現状について（評価平均点：3.71点）

【評価されている強み】

リメディアル教育（基礎補習教育）の仕組みや全学的な AI・データサイエンス教育プログラムの推進が極めて先進的かつ充実している。また、クラス担任制による手厚いフォローアップや個別面談を通じた退学防止・修学支援体制など、小規模大学としてのきめ細やかさが強みとして高く評価されている。

【課題および今後の改善提言】

個別対応に依存しすぎている傾向がある。IR データや学修管理システム（LMS）を横断的に活用し、修学・生活上のリスクがある学生を早期に自動抽出・連携して「問題が起きる前に対応する予防的

指導」へと組織的に転換すべきである。また、学生が4年間を通じて何ができるようになったのかを測る「学修者本位の教育」への転換と成果の可視化、開示が急務である。

■ 研究の現状について（評価平均点：3.71 点）

【評価されている強み】

科研費獲得に向けた学内サポート体制の構築や、地域のスマート農業・スマートモビリティ等の実証実験など、特定の地域貢献型研究において着実な成果が出始めている。

【課題および今後の改善提言】

教員が学生指導や多くの校務・事務作業に追われ、研究時間を計画的に確保できていない現状が強く懸念されている。週単位で研究時間をスケジュールに固定化・確保する仕組みや校務の分散化を進めるとともに、本学の特色を明確に示す分野（「AI for ○○」等）への「選択と集中」とリソースの重点配分が必要である。

■ 入学者確保及び就職の現状について（評価平均点：3.86 点）

【評価されている強み】

女子学生比率の向上を狙った「女子枠」の設置、高大接続教育、教育 DX コンソーシアムなど多層的な募集施策の展開が評価されている。就職内定率は極めて高い水準を誇り、九州・福岡を中心とした地元産業界からの高い信頼は盤石なブランド価値となっている。

【課題および今後の改善提言】

少子化の急速な進行に対し、従来の就職実績頼みの広報から、「教育力の高さ（学生の成長度や満足度）」をデータとして可視化し、高校側へ訴求する広報戦略へシフトすべきである。また、卒業後の学生からの還元の仕組みづくりも望まれる。

■ 社会貢献の現状について（評価平均点：4.14 点）

【評価されている強み】

地域密着型の工業大学として、スマート農業、モビリティ、地場企業との共同研究、自治体連携など、多岐にわたる非常に優れた社会実装・貢献活動を積極的に展開している点が最も高い評価を得ている。

【課題および今後の改善提言】

取組が非常に広範かつ多岐にわたるため、今後は教育的・研究的成果を踏まえた重点分野を明確に設定し、戦略的に整理・集約することが望ましい。また、教職員や学生の負担過重とならないよう、優先順位をつけた事業推進が求められる。

8. 令和7年度の久留米工業大学教育研究推進外部評価委員からの意見に関する 対応方針

令和7年度の外部評価委員会において委員から寄せられた貴重かつ有益な意見・助言を受け、本学では以下の通り対応および改善を進める。

（1）幹部・教職員全体での情報共有と改善推進

総括講評をはじめ各項目において示された指導や提言については、同席した学科長、専攻長、教職員を含む大学幹部全体で速やかに内容を共有し、本学の改善・改革に向け組織的に取り組む。

（2）学生の活動現場を視察する機会の検討・設置

外部評価委員から提案のあった「実際の学生の活動現場や動態を視察する機会」については、誠に適切で有意義な指摘として受け止める。時期や運用の詳細を慎重に検討した上で、次年度（令和8年度）の外部評価委員会等において、学生の実際の活動の様子を直接見学できるような機会・場の設置に向けて具体的に準備を進める。

（3）継続的な質保証と教育研究活動の推進

今回提示された多角的な助言を踏まえ、本学の強みをより一層伸長させるとともに、見出された課題の早期解決に向けた施策を講じる。今後とも外部評価委員からの指導・鞭撻を仰ぎながら、教育・研究体制の持続的な質の向上に努める。